

茶譜類考端  
上

遠 13  
863  
2 止



13 遠へ  
1865  
卷 2  
止



老松の文白ふ十八公のよそむいとやみぢうの糸を振る  
うらうの姉をて今糸をが十八九のよそむいでもうませう  
定あー松の位の帝をまうと存まうとあはの今戸をまうと  
や外けうらうの糸を六皆包もツイうらくと金銀珠玉ハ  
と瓦のどくおきいふ糸をねを振るよそむい姉をてやと  
まう糸が形造糸向うと存糸あうけねのさんもいりまも  
あんぞでハり糸をのあて老ま川の身うとぞんや外

常磐緯文字志津

梅川忠玄傳

内影の梅川忠玄傳と申す梅何れ梅ふ  
 多んのあるおをとぞんお氣あひん  
 あうたのかをさう上外どあう香木と  
 中せの梅川ふゆりもあうわうと  
 そんは流のそり宮と申と二ま  
 めの口りのたてまのもらるる梅  
 二の口むらりと名梅又そふん外ふ  
 まふさんでうり外多くのうらぬ



梅川傳

下三十一

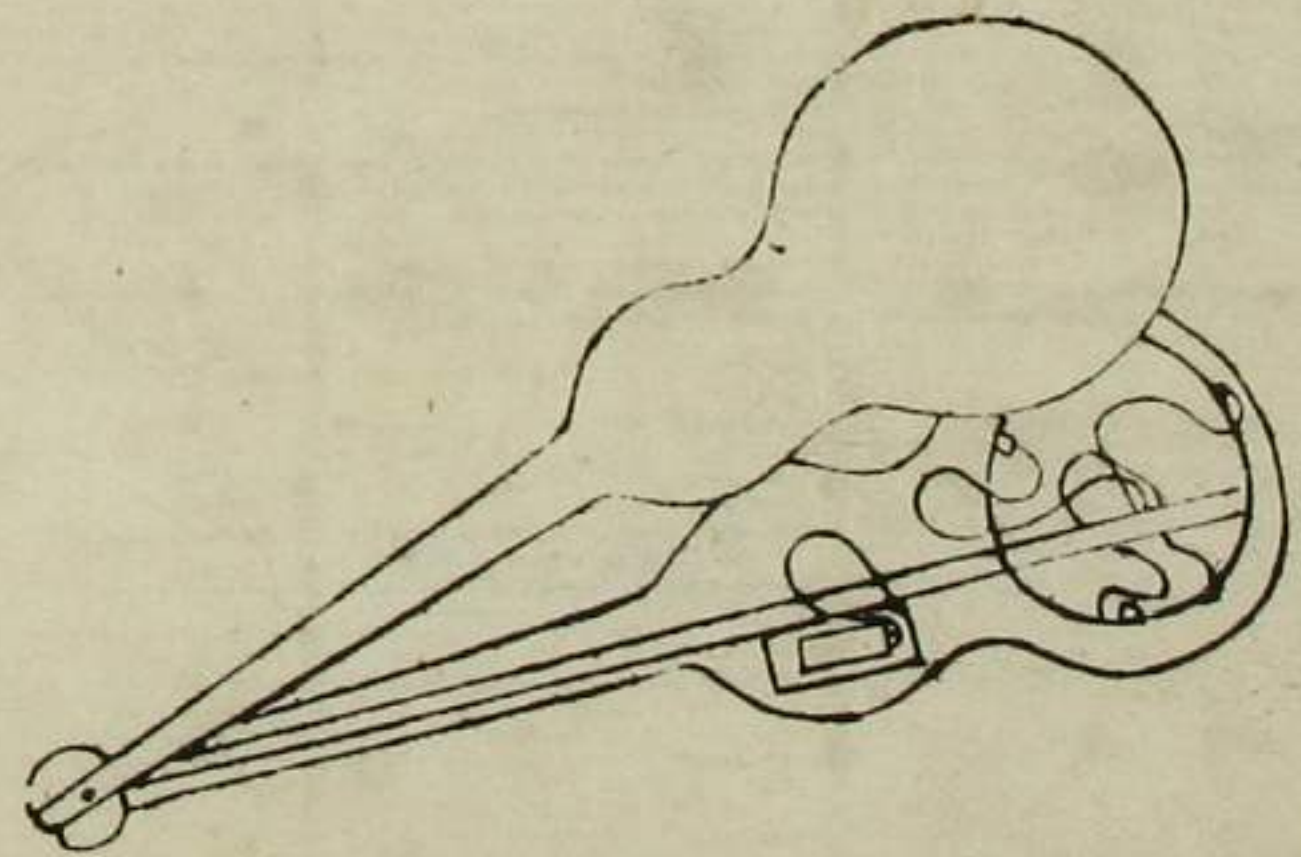
のづき孫をあもありませうとあるぬづきさん  
 の牌の  
 ちきあごそうよう外又梅川の出世をたづぬ  
 かのたづぬぐエドやうつあり外入合で  
 空あけけぬあんとさんかさんも  
 皆さあ入一節のうととそん外が何  
 衆人の身の上とつらむらりのおけん  
 まうとて二節のありま

梅川忠玄傳  
 下三十一

金持

三枝虫

お歌の金持と申すは  
 のぐき金銀<sup>なかり</sup>持<sup>たり</sup>と  
 ぞん<sup>ナ</sup>持<sup>り</sup>が定<sup>ま</sup>り<sup>ナ</sup>宝<sup>の</sup>  
 あるぞも<sup>ナ</sup>持<sup>り</sup>う<sup>る</sup>有<sup>る</sup>  
 わらた<sup>ら</sup>て<sup>ハ</sup>内<sup>ノ</sup>院<sup>ニ</sup>入<sup>リ</sup>ト  
 なる<sup>り</sup>を<sup>あ</sup>ぬ<sup>き</sup>振<sup>ふ</sup>お<sup>も</sup>不<sup>し</sup>  
 つ<sup>り</sup>と<sup>せ</sup>ぬ<sup>き</sup>振<sup>ふ</sup>お<sup>も</sup>不<sup>し</sup>  
 うけ<sup>け</sup>持<sup>り</sup>の<sup>あ</sup>ん<sup>ど</sup>ん<sup>と</sup>も<sup>又</sup>玉<sup>と</sup>も  
 ナ<sup>ハ</sup>持<sup>り</sup>の<sup>ほ</sup>り<sup>ま</sup>し<sup>と</sup>も<sup>あ</sup>ら<sup>ず</sup>あ<sup>ら</sup>う



下三十一

さ<sup>ら</sup>あ<sup>の</sup>あ<sup>ら</sup>く<sup>ぬ</sup>が<sup>ら</sup>ら<sup>て</sup>る<sup>持</sup>の<sup>ぬ</sup>ら<sup>う</sup>と  
 ぞ<sup>ん</sup>持<sup>り</sup>又<sup>ら</sup>い<sup>ら</sup>く<sup>る</sup>あ<sup>ら</sup>を<sup>か</sup>ら<sup>て</sup>る<sup>持</sup>の<sup>ぬ</sup>  
 かる<sup>り</sup>の<sup>あ</sup>ん<sup>ど</sup>ん<sup>と</sup>も<sup>又</sup>玉<sup>と</sup>も  
<sup>兼</sup>う<sup>き</sup>か<sup>さ</sup>も<sup>あ</sup>ら<sup>ず</sup>あ<sup>ら</sup>う<sup>る</sup>あ<sup>ら</sup>う<sup>る</sup>双<sup>方</sup>の  
 か<sup>み</sup>あ<sup>の</sup>あ<sup>ら</sup>く<sup>ぬ</sup>が<sup>ら</sup>ら<sup>て</sup>る<sup>持</sup>の<sup>ぬ</sup>ら<sup>う</sup>と

金<sup>の</sup>ち<sup>ぢ</sup>で<sup>ら</sup>持<sup>り</sup>

浅州田丁住

松葉庵

お

白井権八

飯田新入白井権八ふり糸

むらじより信忠をたてまつ

りのもあふり糸がそのうちふ

あふり糸八小笠と男の

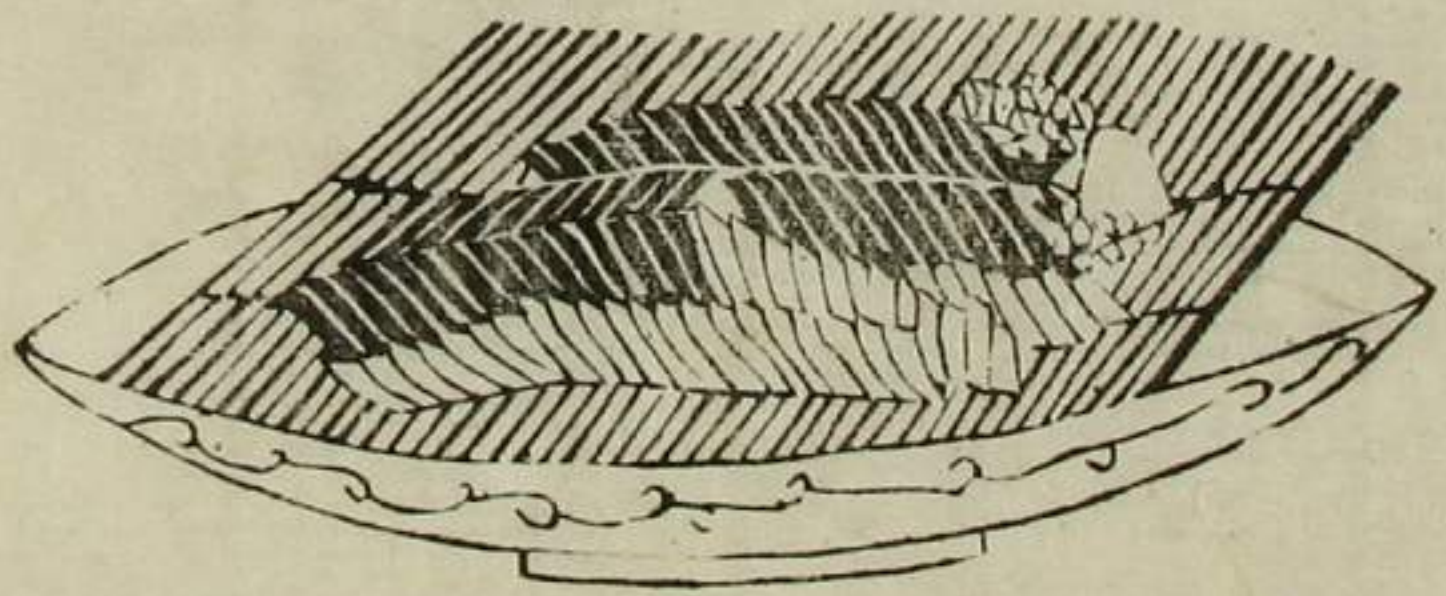
あがふり糸あこり糸考人糸よ

長神女人でふりませう権八の園の

旅人苗氏の白井でふり糸ト

あがめをたてまつるる糸のふり糸と

学お恵



下三十一三

あがりをたてまつるる糸のふり糸と

比<sup>ひ</sup>勢<sup>せう</sup>でもふりませう古<sup>こ</sup>の<sup>の</sup>糸<sup>いと</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>が<sup>が</sup>り<sup>り</sup>ふ<sup>ふ</sup>

の糸<sup>いと</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>が<sup>が</sup>り<sup>り</sup>ふ<sup>ふ</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>が<sup>が</sup>り<sup>り</sup>ふ<sup>ふ</sup>

定<sup>さだ</sup>て<sup>て</sup>百<sup>ひゃく</sup>八<sup>はち</sup>も<sup>も</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>ふ<sup>ふ</sup>う<sup>う</sup>と<sup>と</sup>糸<sup>いと</sup>を<sup>を</sup>あ<sup>あ</sup>が<sup>が</sup>り<sup>り</sup>ふ<sup>ふ</sup>

あ<sup>あ</sup>が<sup>が</sup>り<sup>り</sup>ふ<sup>ふ</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>が<sup>が</sup>り<sup>り</sup>ふ<sup>ふ</sup>

あ<sup>あ</sup>が<sup>が</sup>り<sup>り</sup>ふ<sup>ふ</sup>せん<sup>せん</sup>糸<sup>いと</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>が<sup>が</sup>り<sup>り</sup>ふ<sup>ふ</sup>

萬通印の

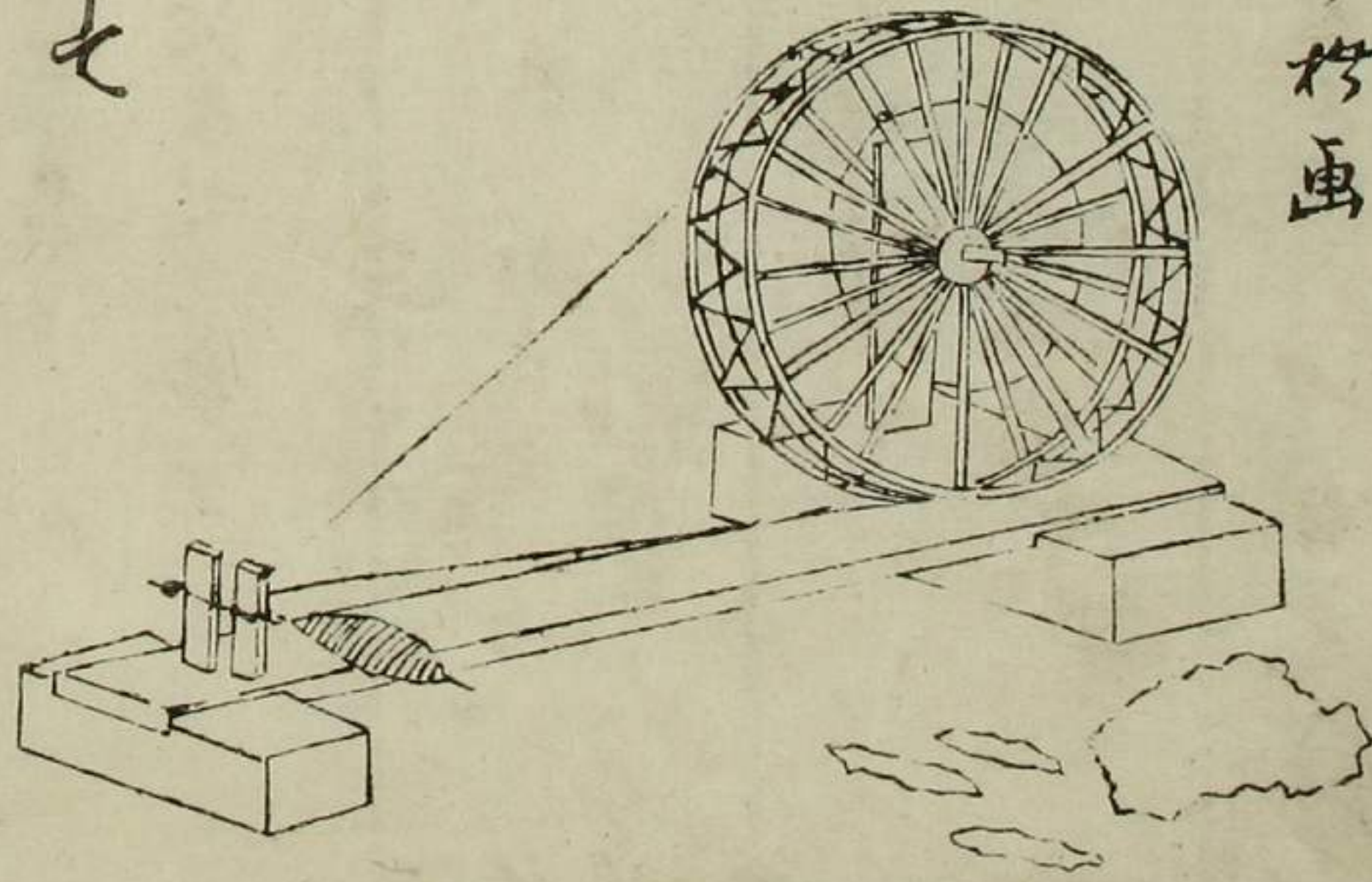
彫茶求

新内第の内

らん煉

ま竹画

私へらんとやとお歌をいふはきと  
 今り煉又白の中ふはうを  
 はじめとやゆづりの煉  
 るんでもはらのはのむをさふ  
 たのんごまうとをまうそくまの  
 まておねがひ中まうかうかづつておる  
 こと糸車をだてて是をかんぐらとやて



下三十四

くまうしんからかんのりてまのつをそとりのあうら  
 らうく考入まてもさうばりあまゆつたませんあんの  
 んぐらるるんの糸車うとをまうまてあまの糸車を  
 あつまうまうらうくはまがあつまのまうはな  
 どりあうひのるさう煉ゆたうひおあ人も切まうし  
 らん煉と煉まうしあうまうまうまうあけ煉  
 糸房あつまのまうのもたうらうとぞんが煉

かく八の中

夏士松八百吉述

木下川

薬師

まろ糖画

お顔の木下川と中柿ナト

遠方より船とぞなまてト船

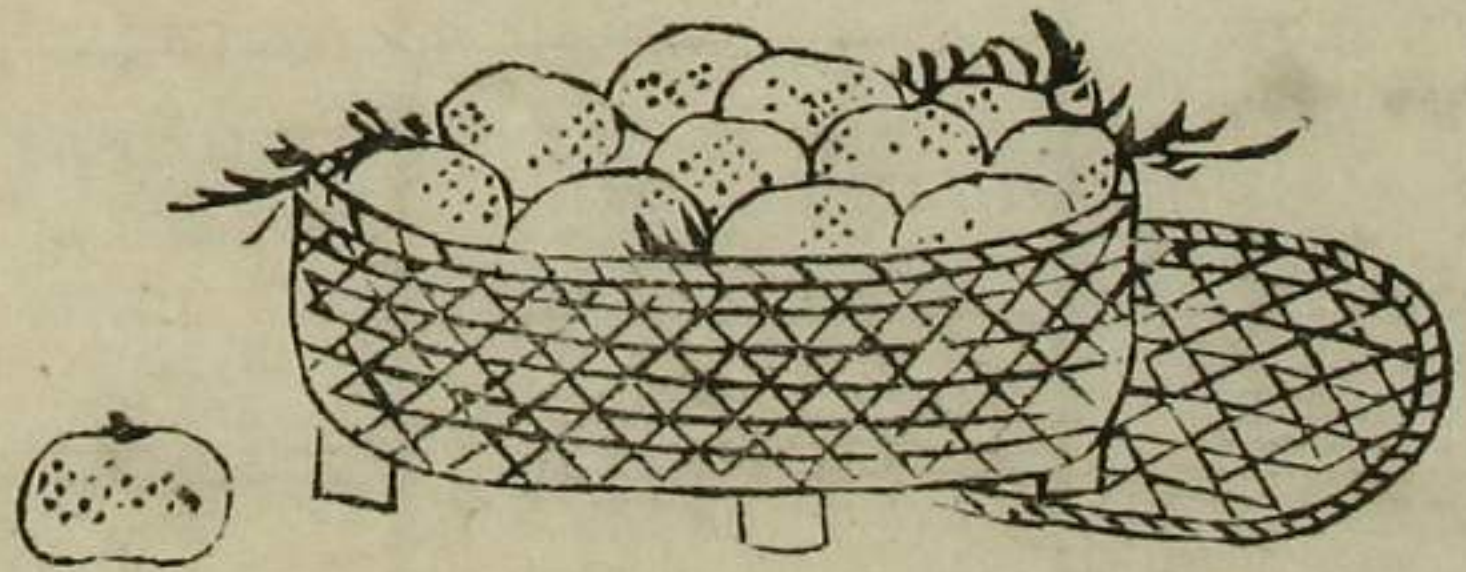
住のあつち柿年を二兄のうま柿と

こえを 別ち此が柿の船で香の

ゆわひちなど那実百ありふいと

ぞん柿あとも又はけり更なまでも

うりま柿うまもあひくを村ありと



喜まるつあまめまをうぬあまあり薬師へ薬師い〜由まき

山果ち果うけぬりま〜まケ振まあまのま新山でま

あつちて浄光ちぶと中柿又薬師のぶまりをまるとり

中柿上柿子 薬師あまひの薬店あまありのままとやまので

おぎの柿由らんのまのままままの柿の英を木の下柿うら

惟ふりつてあり柿由木おお川ままを干あけままと

薬師木あま柿

はむら高賀来

忠臣藏七段目

最幼大石を由緒入拜中しく私の

一カゆて大石をまきまひと存

まじりかまひのわつちるるでう拜

あつたもまきまひのまじりかまひと

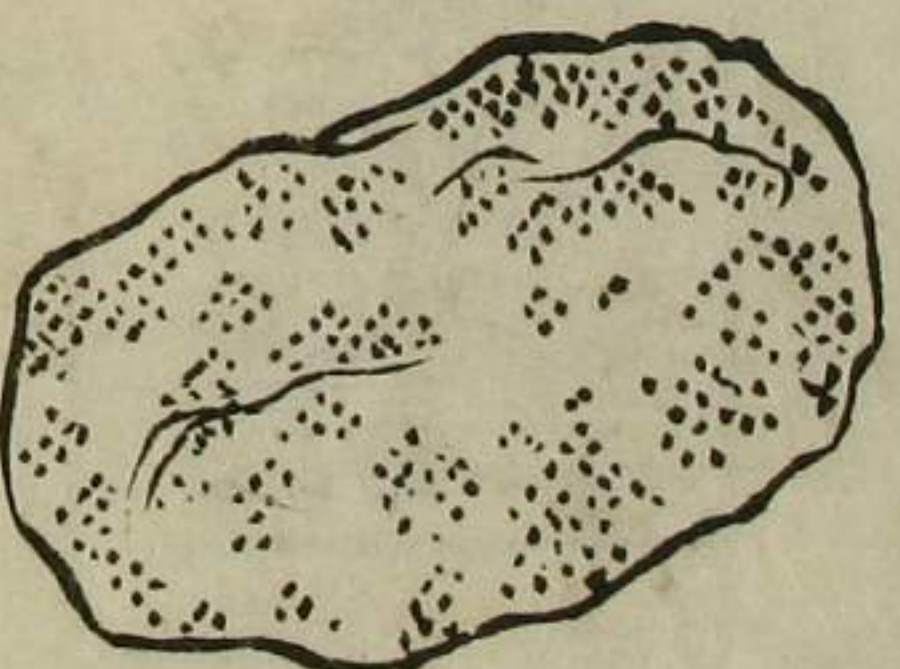
あつたもまきまひのまじりかまひと

あつたもまきまひのまじりかまひと

あつたもまきまひのまじりかまひと

あつたもまきまひのまじりかまひと

あつたもまきまひのまじりかまひと



あつたもまきまひのまじりかまひと

あつたもまきまひのまじりかまひと

あつたもまきまひのまじりかまひと

あつたもまきまひのまじりかまひと

あつたもまきまひのまじりかまひと

あつたもまきまひのまじりかまひと

あつたもまきまひのまじりかまひと

揚町

花山



江戸名所の内

浅草

自由軒

飯屋業あり松浦屋と申お籠をいふは  
おてら寺ありお籠いふは酒客の方

中寺一休を申すもよひあがり  
ひのあがり

いふのくと存てららの思ひ村

今振るそりるおて便す十間と申

えもびますもよおとまると存株う

私も大々風を習ふもいふはあつた

おちうと存すまかう株ぬりたはほくのうらふと存

見番門



飯屋業ありお籠いふは酒客の方  
おてら寺ありお籠いふは酒客の方  
中寺一休を申すもよひあがり  
ひのあがり  
いふのくと存てららの思ひ村  
今振るそりるおて便す十間と申  
えもびますもよおとまると存株う

私も大々風を習ふもいふはあつた  
おちうと存すまかう株ぬりたはほくのうらふと存

おたつてあまうと存株又三人の生をを存また

お茶をいふ毎りの灰せ積でうう株

由海あり

お茶ありちるふあうくあき耐々

松風軒

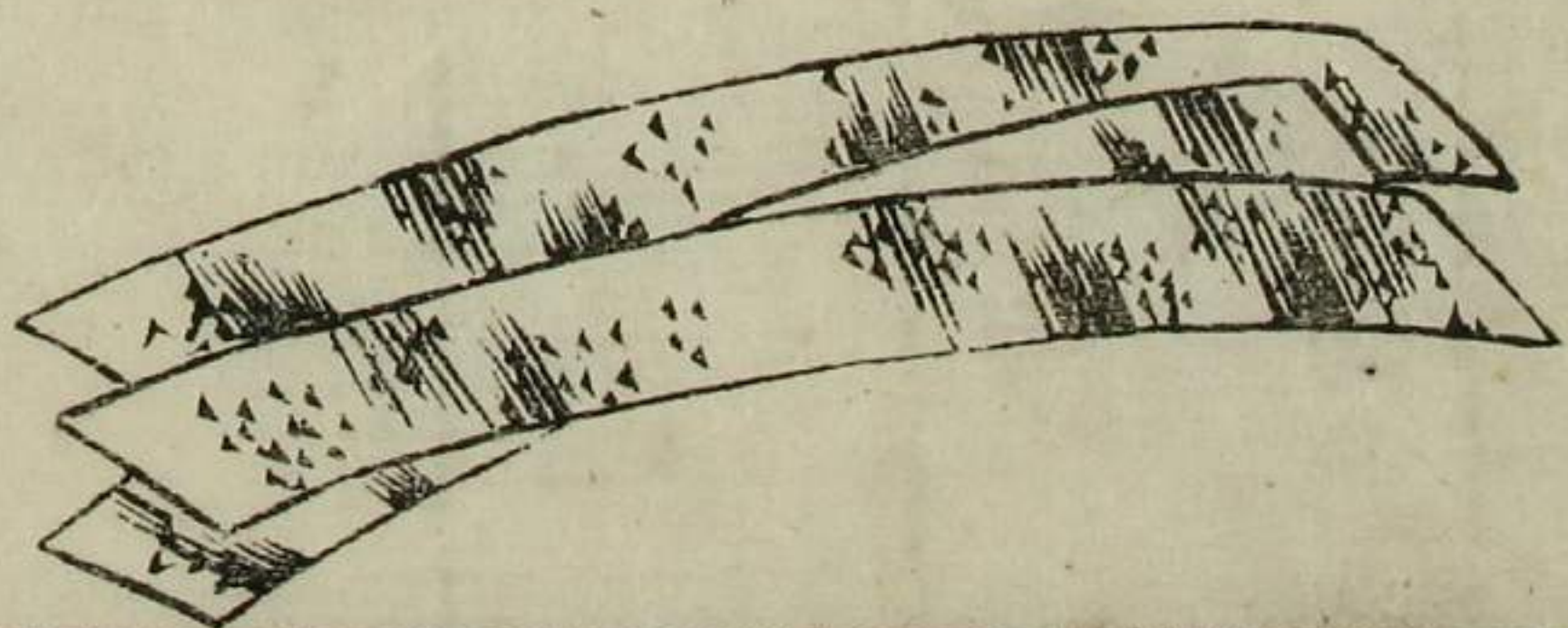
芳名

おんまの航向しとらめらのなり

本

京の菓子

京の菓子と申すは、餅でうす餅のつぎ  
は、栗をんじを、栗うけが、るゝ  
うす餅、うす餅、うす餅と、餅と  
たんぎを、うす餅、うす餅、うす餅  
は、うす餅、うす餅、うす餅、うす餅  
うす餅、うす餅、うす餅、うす餅  
うす餅、うす餅、うす餅、うす餅  
うす餅、うす餅、うす餅、うす餅



一三十九

買ひあつた餅は、うす餅、うす餅、うす餅

うす餅、うす餅、うす餅、うす餅  
うす餅、うす餅、うす餅、うす餅  
うす餅、うす餅、うす餅、うす餅  
うす餅、うす餅、うす餅、うす餅

そのうす餅、うす餅、うす餅、うす餅

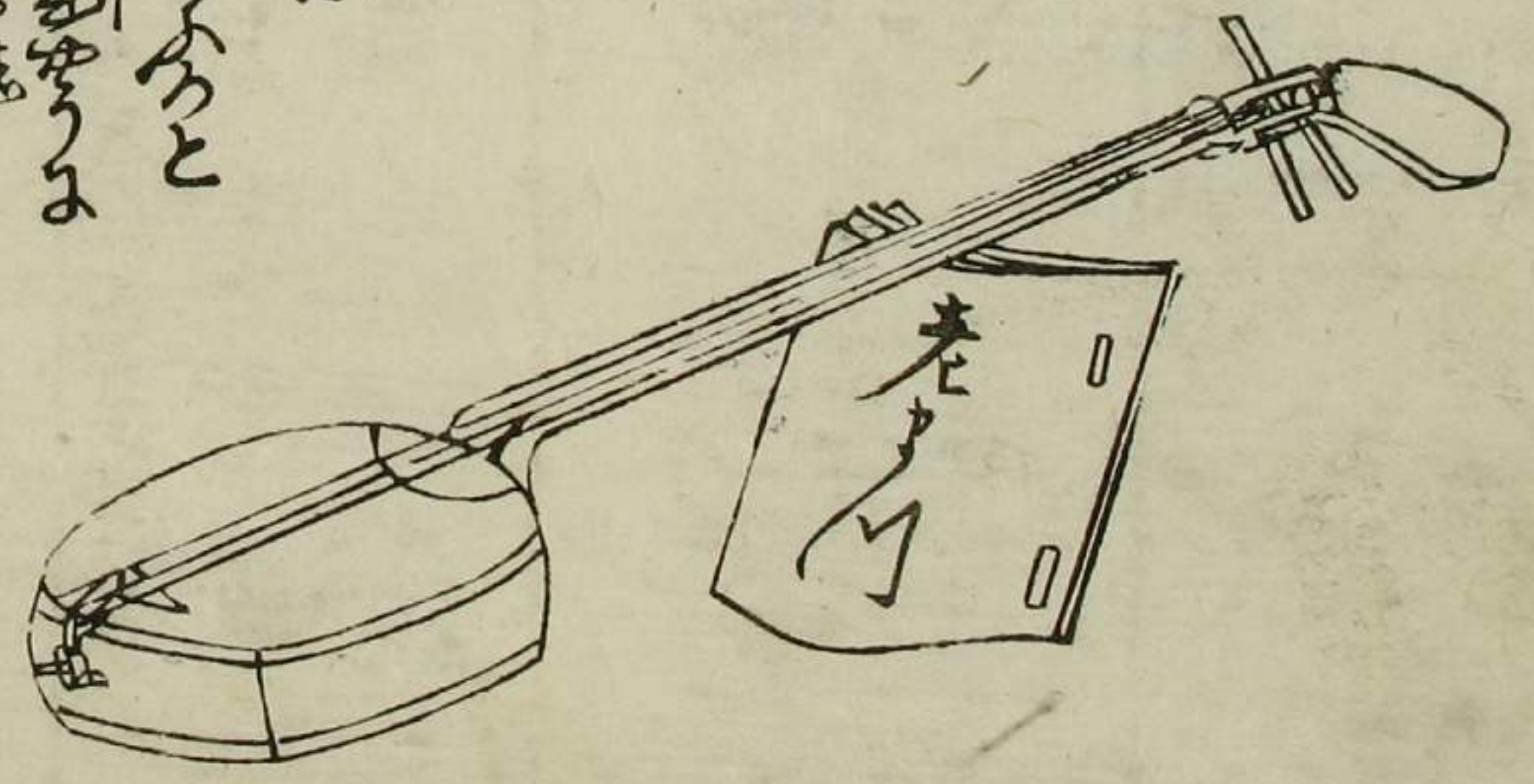
京の菓子、うす餅、うす餅、うす餅

北越加上

萬川宗述

八犬傳

此歌ハ八犬傳ト云々其ハ何リ工夫を  
後引逆算ニ方七野ニせウ見八ト云レバハ  
ニ事見八ニと云レテ振見八めおを見八けんをちを  
のこめてまの見八のま見八ト云レバハ  
かろふののでや見八非私由見八一見八の海見八のりが  
まはでさう見八律見八の見八を見八師見八の見八あ見八ま見八ら  
と云レバハ見八が見八ま見八ぞ見八と見八云見八ふ見八の見八ま見八今見八ふ  
を見八ら見八を見八か見八く見八さ見八ら見八う見八一見八統見八そ見八う見八ま見八け見八ふ見八て見八や見八ら見八ふ見八ら見八と  
あ見八ら見八一見八百見八の見八り見八ま見八せ見八う見八が見八ま見八づ見八一見八を見八り見八は見八あ見八ん見八に見八あ見八ら見八う見八よ見八



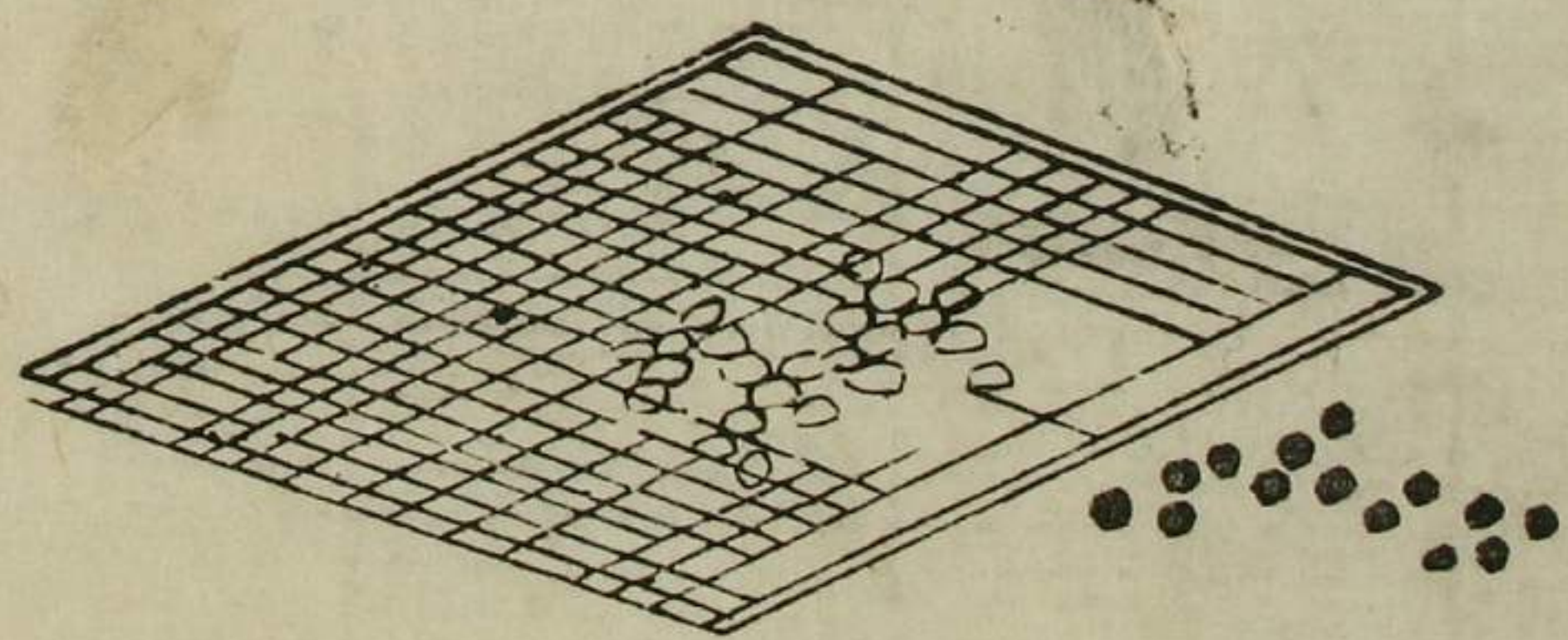
あ見八ら見八一見八百見八の見八り見八ま見八せ見八う見八が見八ま見八づ見八一見八を見八り見八は見八あ見八ん見八に見八あ見八ら見八う見八よ見八  
よ見八そ見八の見八千見八年見八の見八ま見八ど見八り見八を見八あ見八て見八あ見八今見八の見八を見八を見八ま見八な見八ト見八云見八振見八よ見八  
め見八で見八こ見八う見八か見八ら見八の見八ほ見八こ見八う見八仁見八義見八礼見八智見八忠見八信見八孝見八悌見八と見八八見八行見八の見八文見八字見八が見八  
あ見八ら見八一見八百見八の見八り見八ま見八せ見八う見八が見八ま見八づ見八一見八を見八り見八は見八あ見八ん見八に見八あ見八ら見八う見八よ見八  
デ見八シ見八く見八と見八云見八ら見八り見八秘見八が見八ら見八律見八その見八ま見八で見八さ見八り見八律見八  
よ見八く見八え見八ま見八こ見八う見八表見八皮見八が見八ハ見八ッ見八乳見八で見八さ見八ら見八は見八ハ見八犬見八は見八は見八で見八  
ゆ見八り見八律見八の見八ハ見八犬見八で見八ん見八ト見八る見八り見八律見八

肺 淋 堂  
馬 金 述

園その内

五畿内

中河を極よつとあびまうと懸り初ら  
山大和より山大和と出候ものも  
板東の所へたせぬものぞく  
と首へ板やまのまひり  
かまがひのまのまひり  
運をうち棒とおむくひを棒  
皮地ぬりま和泉とせぬ  
おどりの棒とまのまのまひり



下四一

又々棒がくさじり棒とまのま和泉ちでり林

あり一かんどの入りのくま和泉ませんト

ま和泉あまのまをのま和泉ツイ

先急和泉のま和泉とま和泉ま和泉

ま和泉あまのま和泉あまのま和泉

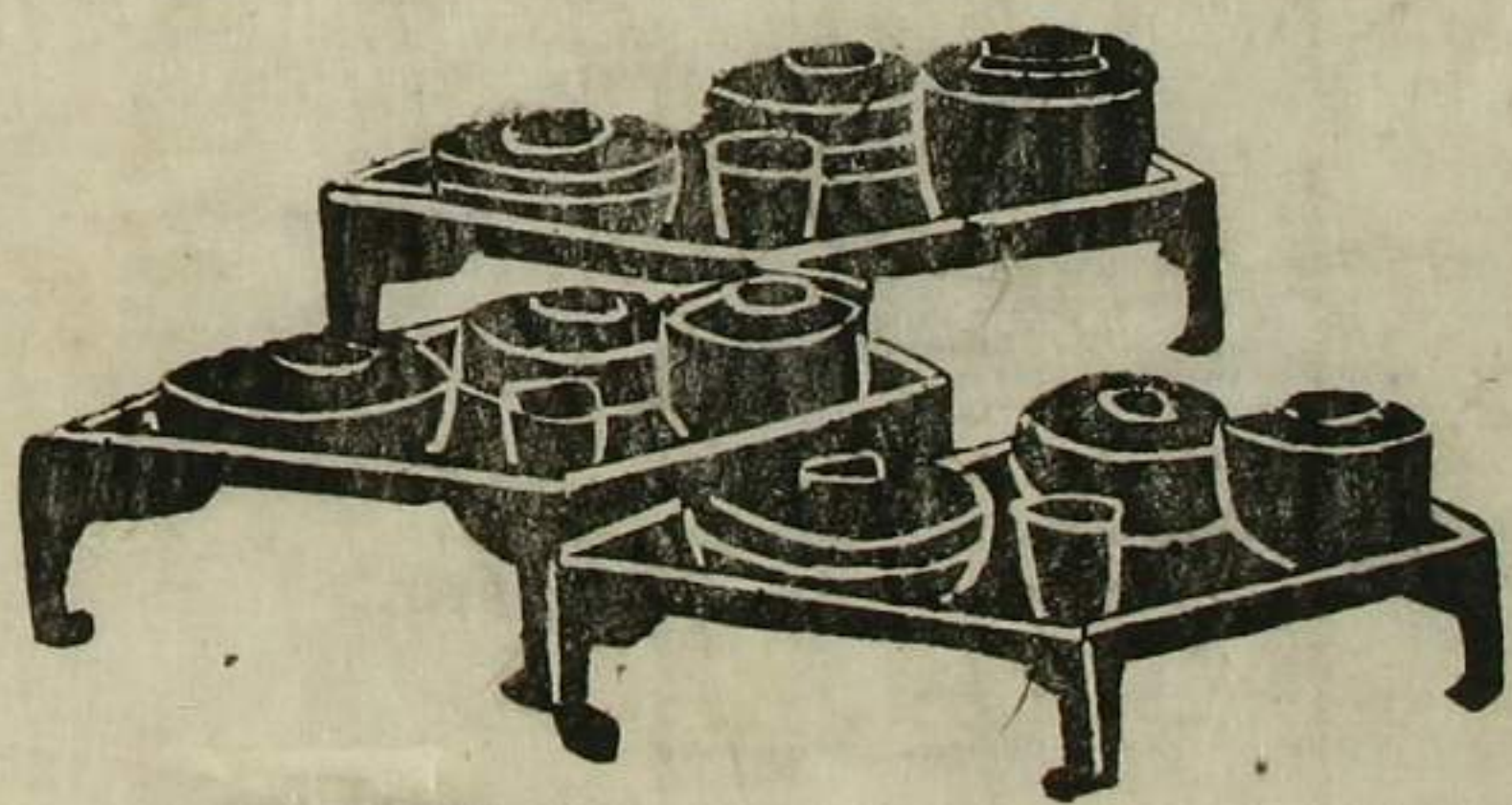
と和泉畿内

全条中

吉丸述

六秋信

秋の秋まらりとるるあつり  
 まをれはごうり秋の信を  
 まらか子外ううよなるい  
 まらか秋まらるの信のや  
 ありまらるとさき信  
 あんやあひぜんといふ  
 けうらでうり信まら  
 月のおあがりそららん信



手あまびの  
 ぜんを  
 三ぜんのまらと申信

あつり信はぜんで出るとぜんらあま

まらあまらと申は連名といひ私の

名と申すはまら信てあまら

あつりぜんうりまら

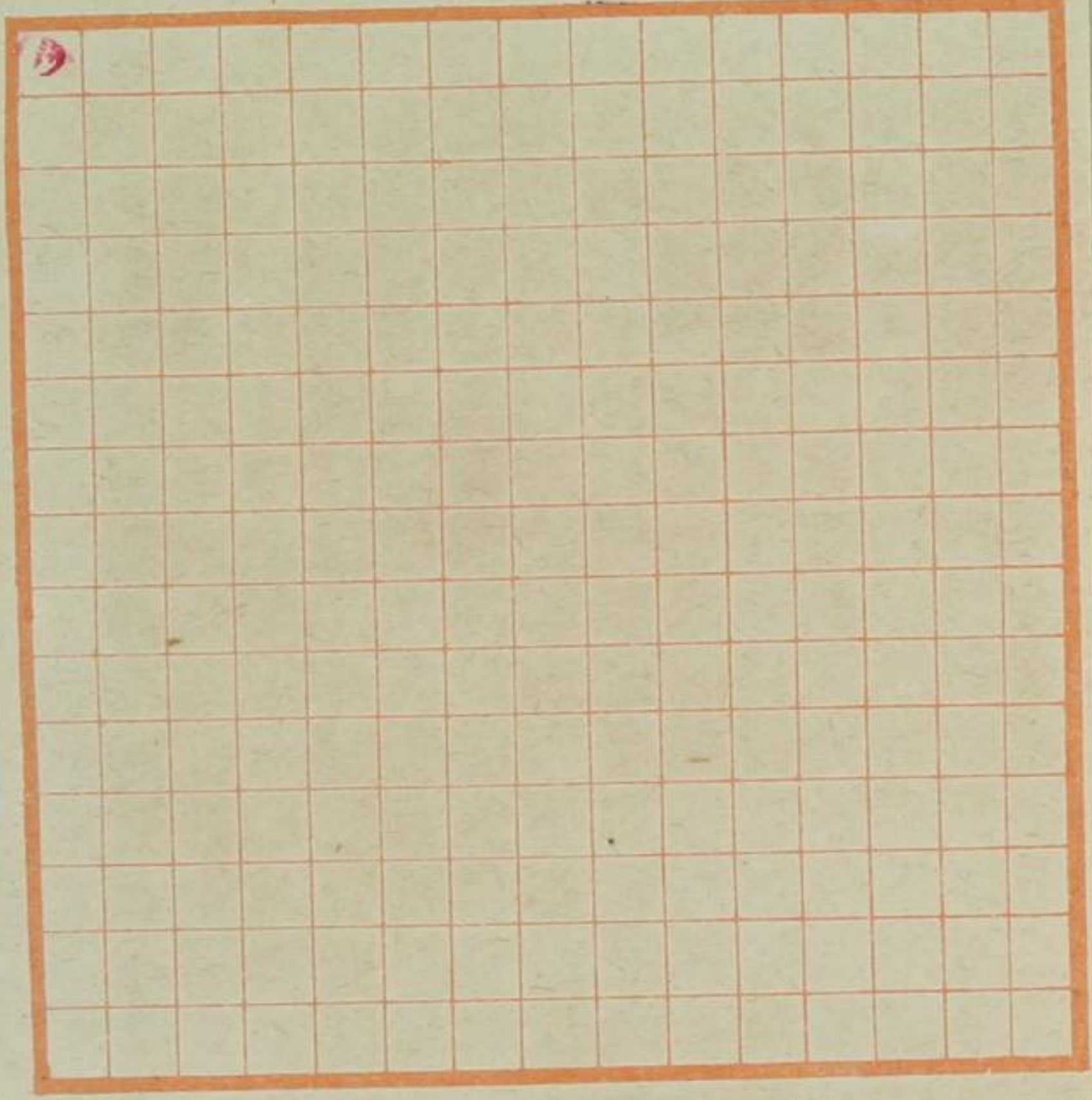
お給あまら まら信

江戸二越中樓内

愛深あまら

か

3年10月



ゆりはるんうの内

とうぬおかそぐ人

とうぬおくそぐ人と申あ影を申也

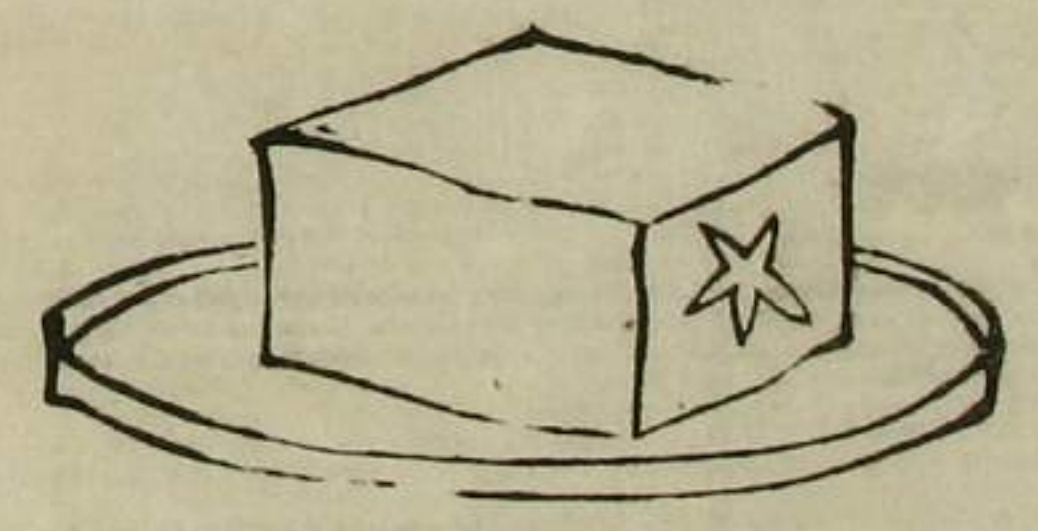
とうぬおくそぐ人と申あ影を申也

とうぬおくそぐ人と申あ影を申也

とうぬおくそぐ人と申あ影を申也

とうぬおくそぐ人と申あ影を申也

とうぬおくそぐ人と申あ影を申也



しらはさんくの肉

とうぬおかまぐん

とうぬおくまぐんともお影を分り

かどういしませうとませうと

とうぬおかまぐん

かまぐんのかまぐん

やてよあーまぐん

めみぢくびをさー

